



Y K K

読もう書こう考えよう

みなさんこんにちは。伊丸岡です。はやいもので夏至も過ぎ、7月を迎えました。来週は中間考査ですね。

ことしはずいぶん図書館だよりが配られるな、めんどくせえな、と不快感を与えていたとしたら、ごめんなさい。

月1くらいにしようと思っていたのですが、昨年度まで週刊で学年だよりを書いていた習慣から、何だかネタがたまる一方なもので、できたら出す、みたいな不埒な出し方で申し訳ありません。

あ、いつもこのフレーズを使うとき、悩むことがあります。それは、「申し訳ない」というまとまりが正しい日本語で、これを敬体にすると、「申し訳ないことでございます」が正しいのだそうでございます。

補助形容詞「ない」を「ありません」「ございません」に置き換えられる言葉とそうでない言葉があり、たとえば「せわしない」「だらしない」「情けない」は「せわしありません」「だらしありません」「情けございません」と言わない。しかし「申し訳ありません」「申し訳ございません」は「定着している」と判断しているのが、『明鏡国語辞典』(大修館)。同書では、「とんでもない」の敬体として「とんでもありません」「とんでもございません」は広く使われるが不自然に感じる人もいる、と解説しています。『明鏡』は、「使い方」の解説が親切な辞典です。

辞書も色々。できれば複数の辞書を使いこなす知的な人になってほしいですね。

伝記って、読んだことある？

228 伝記本の棚を拭いていて、小学生の頃、ポプラ社の偉人伝記をずいぶん読んだことを思い出しました。いまでも出版されているようですが、ヘレンケラー、野口英世、福沢諭吉、豊臣秀吉、湯川秀樹、あと誰がいたっけなあ。小さいときから本が好きだったので、親戚のおばさんから誕生日にもらったり、入院していたときに看護婦さんからプレゼントされたりしたことを覚えています。本文よりも、巻末の大人向けの解説文のほうが興味深かったようで、豊臣秀吉だと「露と落ち・・・」の辞世の歌、福沢の「天は人の上に人を作らず・・・」の『学問のすすめ』の冒頭、野口の母シカさんの手紙の書き出しなど、暗記したなあ。なんでもかいらなければ。

いまの子どもたちは、伝記なんか読んでいるのかなあ。とてもいいと思うんだけど。



二海郡って、知ってた？

229 地域関連の本を拭いていて、北海道について思いを馳せる。

『ほっかいどう学検定 公式問題集(歴史・文化編)』 請求記号291 なんという本がありました。

これからもこの地域で暮らす人、札幌や本州に出て行く人、様々だろうけれど、旭川や上川、北海道のことを意外と知らないんじゃないかと思いますが、いかがですか？ 北海道の東西南北端っこの岬、すべて言えますか？ 行ったことはなくても、道内の湖、温泉、国立公園、一番二番目に長い川、などどのくらい知っているかな？ 離島5島と北方領土4島の名は全部言えるよね？ 道民だもの・・・。



『地図で楽しむすごい北海道』 請求記号291

昔と違っていまはいろんな北海道本が出ているけれど、この本もいいね。

『日本全国 合成地名の事典』 請求記号291

八雲町の郡名が「二海郡(ふたみぐん)」といい、なんと2005(平成17)年、つい最近できた郡名だということを、この本で初めて知りました。「二つの海」その由来は？

現在の八雲町は、かつての太平洋側の山越郡八雲町と、日本海側の爾志郡熊石町とが合併してできました。そこで、新たな郡名「二海郡」が平成の世になって作られたということです。行政区分上の「郡」の機能は失われて久しいのに、やはり「郡名」は必要なのでしょう。この2町は、それぞれ渡島支庁(旧八雲町)と檜山支庁(旧熊石町)に所属していたのですが、新八雲町は渡島管内の所属となったので、檜山管内は、新八雲を挟んで、南北に分断する(飛び地)ことになったのです。新八雲町は日本で唯一、日本海と太平洋とに面する自治体です。ちょっと離れた地域なので、なじみが薄いかも知れませんが、いつか行ってみましょう。

ついでに言うと、現在上川管内である雨竜郡幌加内町は、かつては空知管内。宗谷管内の天塩郡幌延町は、かつては留萌管内。ちなみに空知管内にある南幌町・奈井江町・上砂川町は「空知郡」だけど、上川にある上富良野町・中富良野町・南富良野町も「空知郡」。支庁(旧称)とか「郡」の区切りって、ややこしいね。

さらに請求記号291の棚には、日本や世界の「絶景」「秘境」本があり、美しい写真とともに、旅情をそそられます。国内にもこんなに素晴らしい景観が見られる場所があるんだと感動します。

『西藏旅行記』というタイトルの、本文がまことに古くさい、上下2巻本を見つけました。なんと明治37年刊、昭和53年覆刊という本で、つまり「復刻本」なわけです。こんな本を平成4年に購入しようと決めたのは、どんな理由からだったのでしょうか。ところで「西藏」って、読めます？ 知ってる人はちょべっとしかいないだろうなあ。



というわけで、「200」番台までの本および本棚拭きが終わりましたが、ここで300番台には行かず、「910」番台の日本人作家・五十音別単行本の棚に取りかかったことは、前号でも報告しました。

複本(同じ本が複数)があった『図書館戦争』は、流行ったんだべなあ、映画化もされたしなあ、『フリーター家を買う』二宮さん主演でドラマ化、へえ、これも有川浩だったんだ、なぜ『3匹のおっさん』が複本あるのかなあ、なんて本と会話しながらスピンを引っ込め、表紙背表紙裏表紙を拭き清め、棚も水拭きして、乾かしてから整列する。

どうしてこれ買ったのかなあ、と思わずにはいられない本(30年も貸出記録ゼロの本とか)や、複本がこんなにも?と疑問がわく本がある。むかしはPTA費からも本が買えたので、図書購入費が潤沢だった証のようです。

が、一方で、長年、本の扱いがぞんざいだったんだなあ、と思わずにはいられない。もっと本を大切にしていなければ・・・。

カーテンもリフレッシュ!

図書館のレースのカーテンを、里さんが2日もかけて洗濯してくれました。なんと、色が変わった! こんなさわやかなクリーム色だったのね? いままで、黒っぽくすすけて、手触りもジャリジャリしていたのは、長年の汚れだったんだ!



さらに、開け閉めすれば、ボロボロとカーテンレールからフックが外れてしまうほど、ランナーが劣化していました(カーテン自体もかなり劣化はしていますが)。それを取り外して新しいランナーに交換してくれたのが、公務補の森さん。カーテンの取り外し、取り付けもして下さいました。難儀な作業にもかかわらずありがとうございました。

いやあ、じつにいい感じになってきましたよ、図書館! カーテンに負けず、いっそう本もきれいな図書館を目指します! ぜひ読書に、自習に、利用して下さい!

本来なら、学校図書館はいつでも開いていて、授業でも10分休みでも気軽に利用でき、本のことならなんでも相談にのってくれる専門の職員が常駐すべき(法律には定められている)なんだろうけれど、学校設置者(自治体とか学校法人)の判断によって、充実している地域・学校とそうでない地域・学校との差があるようです。

ちなみにボクの高校時代(道立)の図書館には、なんという職種だったのかわかりませんが、常駐している女性の方がいました。でも、いつもすんごく険しい顔をしていて眼光鋭く、眉間に深いしわを刻み、近寄りたがたい怖いオーラを発していたため、在学中ほとんど図書館には足踏みをしたことがありませんでした(羅生門風)。もったいないことしたなあ。大学時代は、自分の大学図書館ばかりでなく、東大や東洋文庫、国会図書館なんかにも足を運びました。公共図書館でアルバイトしたことも前に書きましたね。

最近、図書館を舞台にした小説もけっこう出てきているので、楽しみです。こんど、特集しましょうかね(残念ながら、本校に収蔵されてるものは少ないのですが)。



切り抜き読み

▼「ナップランド 小樽に半世紀」 6/12 朝日新聞

ナップランドというのは、ランドセルにかわる、ナップザックとランドセルを足して2で割ったような小学生向けの背負い鞆です。小樽の業者が、小樽の小学生(地元では樽っこ)のために作り普及させていたもので、うちの長女もナップランド派でした。いまは軽くて大型のランドセルも宣伝されていますが、こういうのを町を挙げて子どもたちのために作り、普及させた小樽人の気概ってたいしたもんだなあと思います。

▼「編集長の直言」 6/16 あさひかわ新聞

あさひかわ新聞も館内閲覧できるようになっていますが、地元紙ということではなかなか面白いです。高校生の運動系大会の記録なども詳報してくれる新聞です。今回の「編集長の直言」のポイントは3点。

○テレビのキャスターの発音がどんどん「平板化」している件。

「クラブ」、「ズーム」、「リズム」、「ライブ」…本来、「頭高」の発音であるはず。

○小池都知事はやたらと横文字を使いたがる件。

「オーバーシュート」「ロックダウン」「ウィズコロナ」「東京アラート」

○9月入学は本当にグローバルスタンダードか？

じつはこの記事が一番ためになった。各国の入学月が列挙されていた。しかも、「グローバルスタンダード」という語自体が「和製英語」。作られた世界標準だったのでは、というオチに、さすがだなと。

名 作 渉 獵 7月は「文月」

いわみのひと
余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス。

森鷗外

将来に対する、ただぼんやりした不安。

芥川龍之介

7月は「文月」。「ふづき」「ふみづき」と読みます。その由来は、七夕の行事で、書道の上達を願って短冊に歌や願い事を書いたことから、という説が有力だそう。

7月にも著名な文学関係者の生没日がありますが、今回は9日の鷗外、24日の芥川について紹介しましょう。



いわみのくに
森鷗外は1862(文久2)年、石見国津和野藩(現島根県津和野町)の生まれ。秀才で、規定の年齢より2歳も早く東京医学校(のちの東京大学医学部)に入る。国費留学を望み、陸軍軍医となって、念願のドイツ留学を果たす。帰国後、軍医ならびに文学活動も開始。数多くの小説、翻訳、史伝、考証のものなどをもつた。軍医総監という最高位に上り詰めたけれども、死の直前の遺言には「余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス。」とし、墓標には、いわみのひと陸軍軍医総監だの、文学者森鷗外だのという生前の栄典にちなむ一切の文字を刻むことを禁じました。実際、墓標には本名の「森林太郎墓」としか刻まれていません。やるなあ、森鷗外。さすがだなあ、森鷗外。

現代では、ちょっと成功するとやたらと芸名・雅号・肩書きで売名に走りたがる人が多いけれど、本名で一個人を貫くという生き方は、やはり明治人の気骨と言えようか。夏目漱石も、つねに書簡の署名には本名の「夏目金之助」と書いていました。

鷗外の作品は難しいのも多いけれど、『あんじゅ山椒大夫(安寿と厨子王)』『ずしおう高瀬舟』『最後の一句』あたりは中学生でもいけます。『舞姫』もお勧めだけれど、ちょっと言葉づかいが難しいかも知れない。でも、筋は追えると思うので、できたら読んでみよう! 高校生だもの(現代文の教科書には載ってるね)。

1922(大正11)年7月9日、61歳で亡くなりました。



芥川龍之介は、鷗外に後れること30年、1892(明治25)年、東京の生まれ。幼少にして母の病気のため、芥川家に養子に出される。辰年辰月辰の日生まれという芥川龍之介は本名です(ボクの祖父も同じ年、辰年生まれの6番目だったので辰六といいます)。ご存じのように、古典に題材を採った作品(『羅生門』も『地獄変』も『杜子春』も…)、詩や短歌、俳句、評論等々、ほんとうにたいへんな文才だなあと驚かされます。没後、菊池寛が芥川の名を長く顕彰しようと「芥川賞」を創設したのも肯けます。小説は短編が多いので、ぜひたくさん読んで下さいね。

遺書に「何か僕の将来に対する、ただぼんやりした不安」と記して1927(昭和2)年7月24日に服毒自殺を遂げました。35歳。『羅生門』を発表したのは23歳。翌年『鼻』が夏目漱石に激賞される。それから亡くなるまでの10年ちょっとであの作品群! やはり芥川は天才だと思います。

『杜子春』の冒頭…「ある春の日暮れです。」

『蜘蛛の糸』の冒頭…「ある日のことでございます。」 …どこかで聞いたことのある出だしだね?

7月6日はサラダ記念日

「この味がいいね」と君が言ったから7月6日はサラダ記念日

昭和62年に刊行され、一世を風靡した俵万智さんの第一歌集『サラダ記念日』。その代表歌がこの歌です。爾来、カレンダーの7月6日に「サラダ記念日」と印刷されたものまで現れました。

万智ちゃんを先生と呼ぶ子らがいて神奈川県立橋本高校

へえ、これで短歌になっちゃうんだ！と衝撃を受けました。

ところで「万智ちゃん」は、高校の先生だったんです。じつはボクと同じ年に生まれ、同じ4年間東京の大学の空気を吸い(違う大学でしたけれど)、同じ年に同じように公立高校の先生になり(違う県ですが)、というようにたいへん一方的な親近感があります。

「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で愛を言う君

「嫁さんになれよ」だなんてカンチューハイ2本で言ってしまういいの

トロウという字を尋ねれば「セイトのト、クロウのロウ」とわけなく言えり

この場合の「電話」とは、いまのような携帯電話ではありません。今風に言えば「イエ電」。電話をかけるタイミングも受けるタイミングも双方一致しなければ、電話でつながることが難しかった時代の、もどかしい恋愛関係の2人を謳っています。古き良き時代。

俵さんは「与謝野晶子の再来」、短歌界の革命児とまで絶賛され、口語体のきわめて新しいスタイルの短歌として大受けしました。『男たちのサラダ記念日』という、俵万智のファンによる作品集まで出たほどです(残念ながら先の「除籍」(廃棄)本の中に入っており、いまは本館には存在せず)。

俵さんは歌集の他に、日本の古典関連本、エッセーも多数出版されており、小説も1冊書いています。残念なことに本校にはないのですが、『トリアングル』という小説です。公共図書館などでいかがですか？

『サラダ記念日』 俵万智 河出文庫 **請求記号B** (文庫の棚「た」にあります)



こんな本見つけました(略して本ミツ)

『みんなの図書室』 小川洋子 PHP 文芸文庫(文庫の棚「お」にあります)

ラジオ番組で紹介した本を、文庫にまとめたものなのだそうです。「春の本棚」「夏の本棚」というように四季に分けて、それぞれの季節に十数冊ずつ、計 50 冊ほど紹介しています。その中で、ボクもお勧めしたいのは次のとおりで、本校図書館にあるものを選んでみました。

ウェブスターの**『あしながおじさん』**(外国文庫の棚ウ)、日本初のノーベル賞受賞者・湯川秀樹のエッセー**『旅人』**(文庫の棚ゆ)、森鷗外の**『舞姫』**(文庫の棚も)、重松清の**『ビタミンF』**(作家別単行本し)、野坂昭如の**『火垂るの墓』**(文庫の棚の&大型絵本棚)、太宰治の**『人間失格』**(文庫の棚た)、小林多喜二の**『蟹工船』**(文庫の棚こ)、日本古典物語の元祖**『竹取物語』**(各種古典文学全集)、吉本ばななの**『キッチン』**(作家別単行本よ)、オールcott**『若草物語』**(外国文庫の棚オ)、新美南吉の**『手ぶくろを買いに』**(絵本)、山田詠美の**『放課後の音符』**(作家別単行本や)などなど、多岐に亘ります。

ぜひ、このナビゲーターをたよりに、古今東西の名著に触れてみませんか？

なお、小川洋子さんは、『妊娠カレンダー』**『博士の愛した数式』**(作家別単行本お)の著者です。

スピンを引っ込めたら…

はじめは、スリ切れを防ぐために本からはみ出している「スピン」(しおりヒモ)を引っ込めていましたが、本棚一列分引っ込めてみたら、なんと本棚がすっきりきれいに見えるではありませんか!? 日本の作家別単行本でこれに気づき、文庫本の棚もやってみた。すると、雑然としていた本たちが、すっきりきれいな顔だちに変貌。これにはびっくり劇的!! before after!

汚れも落とし、見栄えもきれいにし、どんどん「イイ感じ」になってきている図書館へどうぞ!

図書局企画展示第2弾、「城」に関する本の特集も、ぜひ見に来てね。

そうだ、図書館に行ってみよう!

(文責 伊丸岡圭一)

